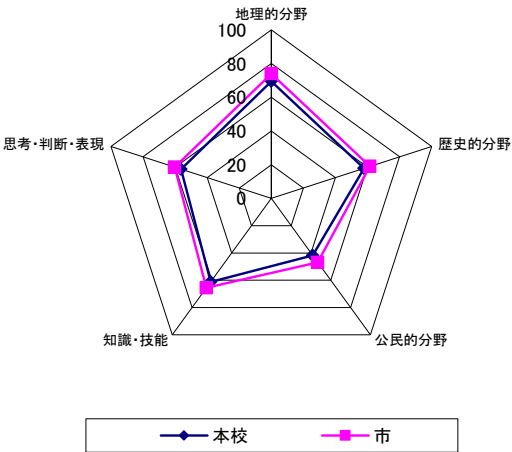


宇都宮市立陽西中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	69.4	74.0	67.9
	歴史的分野	57.8	61.5	56.1
	公民的分野	41.9	46.9	40.7
観点別	知識・技能	61.2	65.5	60.6
	思考・判断・表現	56.3	60.2	52.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	市の平均正答率を4.6ポイント下回っている。 ○日本の地域的特色・諸地域に関する問題では、市の平均を若干下回るものの、基礎・活用にかかわらず全国平均を上回る正答率になっているものもあった。 ●世界の姿や各種発展問題、分野横断的問題・記述問題が市の平均を下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・分野横断的な問題や複数資料を組み合わせた読み取り問題の練習を普段の授業で取り入れる。 ・自身の考えを記述したり、資料を読み取ったりする内容の授業を継続して行う。
歴史的分野	市の平均正答率を3.7ポイント下回っている。 ○古代までの日本の問題では、基礎・活用にかかわらず市の平均を上回る箇所も見られた。 ●近世の日本の問題では多くが市の平均を下回る結果となっている。特に政治よりも民衆の生活や文化の問題の正答率が低い傾向がある。	・政治の入れ替わりが激しくなる近世の分野をより整理できるような授業を重点的に行う。 ・基本的な政治分野だけではなく、民衆の生活や文化に関しても、生徒の興味関心を引き出せるような資料を工夫し、知識の定着を図れるような授業を実施していく。 ・資料を精選し、それぞれの時代を見通せるような授業編成を行い、生徒自身の考えや資料から読み取れる内容を記述させるようなワークシートの作成を行う。
公民的分野	市の平均正答率を5.0ポイント下回っている。 ○人間の尊重と日本国憲法の問題では、記述問題が市の平均を上回る結果となった。考えや資料から読み取れる内容を記述する取り組みの積み重ねの成果と言える。 ●基礎的な問題の多くが市の平均を下回る結果となった。基礎基本の定着率が低い傾向がある。	・自身の考えや資料を読み取り考える作業を継続して行いつつ、基礎的・基本的な用語が身に付くように、身近な事象と関連させながら授業を行う。 ・分野ごとに基本的な内容を確認できるような時間や、ワークシートを取り入れ、振り返りや確認ができる時間を取り入れる。